

## 研究主題「職業生活に向けた生徒の基礎的・汎用的能力を育成する効果的な指導 —就業技術科におけるライフスキルの考えを取り入れた学習を通して—」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
都立南大沢学園 主任教諭 小嶋 利信

### 第1 研究のねらい

都立知的障害特別支援学校高等部就業技術科では、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画」（平成29年2月）を踏まえ、卒業後の就労に向けたキャリア教育の実践が積極的に進められてきた。特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）には、「生徒が、学校教育を通じて身に付けた知識及び技能を活用し、もてる能力を最大限伸ばすことができるよう、生涯学習への意欲を高める」とある。これは、障害のある生徒に対して学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図ること、つまり、在学中の学びを、卒業後の職業生活の充実につなげることが重要であることを示している。そのためには、変化の激しい世の中で、自分が学習、経験したことを生かし、キャリア教育で育む力である基礎的・汎用的能力（表1）を身に付けることで、職業生活で直面する様々な場面に対応できるようになることが大切である。東京都教育委員会は、キャリア・パスポートの活用を推進し、基礎的・汎用的能力の育成を示している。そこで、基礎的・汎用的能力を育成するために、日常的に起こる様々な問題や要求に対して、より建設的かつ効果的に対処するための能力が必要である。この能力として、WHO（世界保健機構）が定義しているライフスキル（表2）の考えを取り入れた指導方法の開発を本研究のねらいとした。

表1 キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力

○人間関係形成・社会形成能力 （コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど）
○自己理解・自己管理能力 （自己の役割の理解、忍耐力、主体的行動など）
○課題対応能力 （情報の選択・処理、課題発見、計画立案、実行力など）
○キャリアプランニング能力 （学ぶこと・働くことの意義の理解、将来設計など）

表2 WHOが定義するライフスキルの10項目

①対人関係スキル ②自己理解 ③共感的理解
④情動に対処するスキル ⑤ストレスに対処するスキル
⑥効果的コミュニケーションスキル
⑦意思決定スキル ⑧批判的思考
⑨問題解決能力 ⑩創造的思考

### 第2 研究仮説

職業生活で直面するであろう課題に対して、ライフスキルの考えを取り入れた指導方法は、対応方法の獲得に有効であり、生徒の基礎的・汎用的能力を高めることができるであろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

(1) 国の調査によると、学校卒業後の18歳から24歳までにおける学習ニーズには、「社会生活に必要な知識・スキル」など、生活に密着したものが約65%ある。また、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画」では、知的障害教育における一貫したキャリア教育の充実が求められている。就業技術科では、キャリアガイダンスの機能を充実させることにより、対人関係能力や表現能力の向上を目指すとともに、勤労観や職業観を養うことが必要であると示されていることが分かった。

(2) 「キャリア教育」、「ライフスキル」、「自己効力感」に関する先行研究文献の分析から、基礎的・汎用的能力とライフスキルの10項目を関連付け整理した。指導方法として、ブレインストーミング、ロールプレイング、生徒間フィードバックなどが活用できることが分かった。

## 2 調査研究

就業技術科第1学年から第3学年までの生徒273名及び教員45名に対して、基礎的・汎用的能力に関する生徒の自己評価と教員による評価についての調査を行った。生徒の基礎的・汎用的能力の実態から特徴や課題を見だし、ライフスキルの考えと照らし合わせて、効果的な指導方法を検討するためである。調査においては、キャリア・パスポートの作成で例示されている中学校及び高等学校段階の目標を基に、結果を数値化し(表3)実態を表した。

表3 キャリア・パスポートの作成で例示されている中学校及び高等学校段階の目標の数値化

- ア 基礎的・汎用的能力の各能力につき6点の調査項目を設定した。  
 イ 一項目につき【あてはまる：3点、ややあてはまる：2点、あまりあてはまらない：1点、あてはまらない：0点】の4段階を設定した。  
 ウ 1～9点を中学校段階、10～18点を高等学校段階と想定した。

### (1) 生徒の自己評価と教員による評価から見る生徒の基礎的・汎用的能力の実態

生徒の自己評価と教員による評価は、学年が上がるにつれて、差が縮小することから、発達の段階に応じて自己の能力を客観的に見つめる力がついていくと読み取ることができる(図1)。しかし、それでも教員による評価で9点台、自己評価で10点台という結果は、卒業後の職業生活を考えると、より一層高めていく必要がある。

さらに、卒業を控えた第3学年に着目すると、自己評価と教員による評価の差が最も大きかったのは、人間関係形成・社会形成能力であった(図2)。このことから、人間関係形成・社会形成能力の育成を注力すべき課題と捉え、コミュニケーション・スキルの向上を図ることを、本研究において、まず取りかかるべき基礎的・汎用的能力の一つとして捉えることとした。

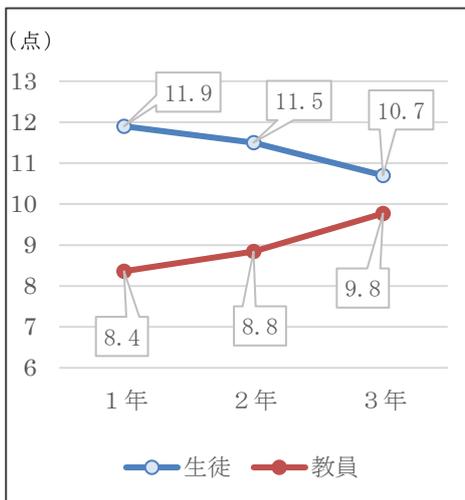


図1 基礎的・汎用的能力の各能力の合計の平均値

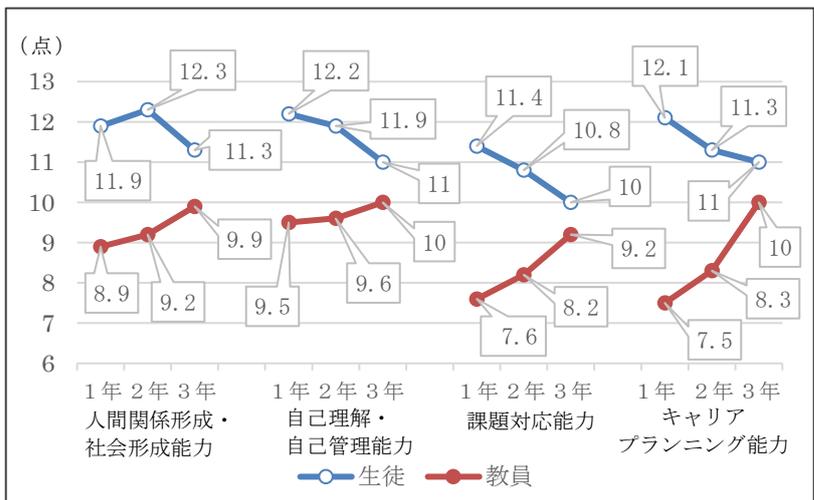


図2 基礎的・汎用的能力の各能力別の平均値

### (2) 生徒の自己評価と教員による評価の差から見る生徒の基礎的・汎用的能力の分類

生徒の自己評価と教員による評価の差から、全ての能力について自己評価が高い「自己高型」、全ての能力について自己評価が低い「自己低型」、全ての能力についてほぼ一致する「一致型」、自己評価が高い能力と低い能力が混在する「クロス型」に分類した。最も多かったのは、全体の半数であった「自己高型」である。この型は、自己評価が高いという特徴から、自

分の行動や考えを他者と比較したり、他者からの意見をもらったりすることが、自己を客観的に評価するきっかけとなり、基礎的・汎用的能力の育成に効果的であると考えた。

### 3 開発研究

#### (1) 「傾聴シート」の開発

調査研究の結果から、コミュニケーション・スキルの向上を目指した指導方法を開発した。本研究において整理した、基礎的・汎用的能力とライフスキルの10項目の関係(図3)からも、「効果的コミュニケーションスキル」は、要の能力であることが分かる。コミュニケーションは、正確にインプットし、適切にアウトプットすることが大切である。そこで、相手の話を聴く力を付ける「傾聴シート」を作成した。

#### (2) 「課題対応シート」の開発

インプットしたことを適切にアウトプットするには、自ら課題の対応方法を選んだり考えたりすることが大切である。そこで、実践できる対応方法を見つけ出せる「課題対応シート」を作成した。

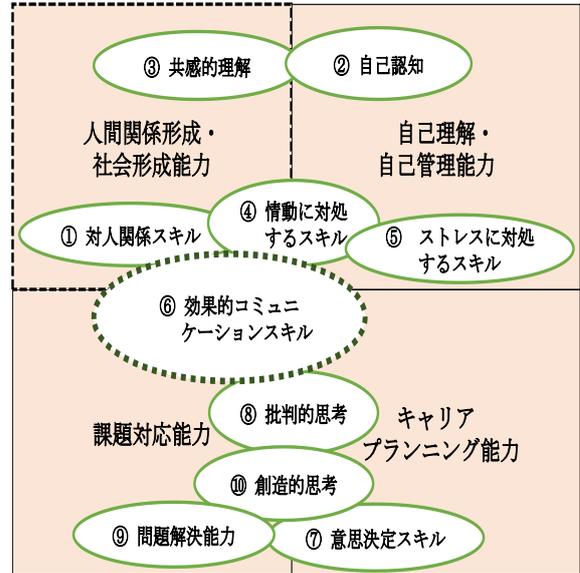


図3 基礎的・汎用的能力とライフスキルの10項目の関係

### 4 検証授業及び検証授業の分析

#### (1) 検証授業の概要

就業技術科第3学年の生徒20名を対象に、キャリアガイダンス「コミュニケーション」(全4時間)の授業において検証授業を実施した。

表4 キャリアガイダンス「コミュニケーション」(全4時間)の内容

時	○学習のねらい・学習活動【手だて】	基礎的・汎用的能力の観点	ライフスキルの10項目の観点
第1時	○相手の話を傾聴する方法を知る。 ・相手の話を傾聴するために、質問を考える。 【傾聴(他者の考えや気持ちを受け止めて聴く。)]	○人間関係形成・社会形成能力	①対人関係スキル
第2時	○相手の話を傾聴する。 ・傾聴シートを活用して、傾聴ができているか確認する。 【傾聴シート、生徒間フィードバック、ペアワーク(自己の役割を考え、他者の考えを受け止める。)]	○人間関係形成・社会形成能力 ○自己理解・自己管理能力	⑥効果的コミュニケーションスキル
第3時	○相手の考えや意見を聴き、新たな自己の考えを見付ける。 事例「カラオケの誘いに対して相手の気持ちと自分の気持ちを考えてどう対応するかを考える。」 ・ブレインストーミングで対応方法を出し合う。 ・自己と他者の気持ちを考えて、対応できるか予想する。 【ブレインストーミング(情報を収集する。)、グループワーク、課題対応シート(対応方法を評価する。)]	○課題対応能力	⑩創造的思考
第4時	○相手の気持ちを考え、自分の意見を伝える。 ・自分の意見を伝えられるか、ロールプレイングで確認する。 ・ロールプレイング後に再度、実現できるか確認する。 【課題対応シート、追体験(現実的な対応方法を考える。)]	○課題対応能力 ○自己理解・自己管理能力	⑨問題解決能力

#### (2) 検証授業の分析

各時間において「傾聴シート」を活用し、傾聴を通じて相手の意見や考え及び気持ちを聴い

たり（表5）、相手の気持ちを考えて、自分で実践できる対応方法を見付け出したりする（表6）  
ことができたか。

表5 「傾聴シート」活用の様子

生徒A（自己高型）		生徒B（自己低型）
○自己理解に課題があり、「できる。」という評価になることが多い。	傾向	○できることに對しても、「できない。」と評価してしまうことが多く、自信がもてない。
○「傾聴シート」を活用して、自己と他者の評価を比較し、傾聴できているか確認させる。	手だて	○「傾聴シート」の相手の評価やロールプレイングの様子を伝え、できていることを気付かせる。
○話すことは得意と答えたが、傾聴では、「何を聴けば良いか分からない。」と発言があった。 ○相手が「話せなかった。」と評価し、生徒Aは、「分からない。」と評価ができなかった。	観察による課題の把握	○話を聴くことは、あまり得意ではない。 ○「質問がうまくできない。」とシートに記入した。
○傾聴ポイントの確認と質問方法を指導した。 ○「傾聴シート」で相手の評価を確認し何を改善すれば良いか確認させた。	指導	○「うまく質問してくれたので話しやすかった。」という意見があったことを伝え、自分から質問ができたことを気付かせた。
○自分で考えて質問することができた。 ○2回目は質問を考えながら傾聴できた。 ○ペアワーク後、「聴けた。」と評価した。	結果	○2回目以降のペアワークでは、質問ができたことや話を聴けたことで、「相手に合わせて聴けた。」と自分ができたことに気付けた。

表6 「課題対応シート」活用の様子

生徒A（自己高型）		生徒B（自己低型）
○対応方法を考えるときに、自分の考えや気持ちを優先させる傾向がある。	傾向	○答えを出すことに自信がなく、相手の考えや気持ちを優先させる傾向がある。
○相手の気持ちを考えることを意識させて対応方法を考えさせる。	手だて	○ブレインストーミングで自分の考えを出させる。 ○相手の評価やロールプレイングの様子を伝え、できていることを気付かせる。
○対応方法がなかなか見付け出せなかった。 ○対応の予想では、自分の気持ちを「安定」として、自分の気持ちを優先させて予想した。	観察による課題の把握	○自分の考えを出すことがなかなかできない。 ○相手の意見が正しいと認識してしまう。
○ロールプレイングで相手役をさせて、相手の気持ちを考えさせた。	指導	○自分の考えを優先して考えてみることを提案した。 ○できていることを伝え、自己評価させた。
○ロールプレイング後、考えた対応方法は「意外と使いづらい。」と、回答に変化があった。 ○仲間の意見が参考となり、相手の気持ちを考え対応方法を見付けることが「少しできた」という気付きがあった。	結果	○自分と同じ意見を見付け、共感することができた。 ○対応予想は、「不安定」から「少し不安定」と気持ちの変化が見られた。 ○周りの意見を聴き、「断ったり、誘ったりできるようになりたい。」と、前向きな意見がみられた。

### (3) 考察

生徒A及び生徒B以外にも、「傾聴シート」を活用して、相手の気持ちを考えて話を聴く姿や相手の意見や考えを受け入れる姿が見られた。「課題対応シート」の活用では、ブレインストーミングから他者の意見を収集し、まとめることができていた。考えた対応方法をロールプレイングで確認することで、自分ができそうな対応方法を見付けることにつながった。これらの開発物の活用によって、正確にインプットし、適切にアウトプットする様子が多く見られ、コミュニケーション・スキルの向上に効果的であったと考える。

## 第4 研究の成果

本研究では、人間関係形成・社会形成能力の育成に着目し、コミュニケーション・スキルの向上を図った。「効果的コミュニケーションスキル」は要の能力であるため、本研究で開発した指導方法の積み重ねによって、他の基礎的・汎用的能力の育成が期待できる。

## 第5 今後の課題

本研究は、基礎的・汎用的能力やライフスキルの10項目の全てを扱っていない。他の能力に着目した指導方法を開発し、多角的な成果の検討をする。